

## 敦賀半島に整備中の市道

# 原電の寄付再開期待

市長

日本原電敦賀原発増設時の  
工事や、原発事故時の住民避  
難に活用が期待されながら、  
本年度で建設が中断する敦賀  
半島の市道西浦1、2号線(総  
延長3・8キロ)に関連し、敦  
賀市の河瀬一治市長は4日の  
定例会見で「いづれやっても  
らえると思っている」と原電  
の費用負担再開に期待感を表  
した。敦賀原発3、4号増設  
について「国のエネルギーミ  
ックスを考えれば必要な原  
発」とあらためて前向きな姿  
勢を示した。

市道は、敦賀原発までの曲  
がりくねった県道のバイパ  
ス。原電の全額負担で200

9年に測量などに着手したも  
の、原電が厳しい経営を理  
由に来年度の寄付(負担)を  
見送ったことから建設が中断  
した。最大の難所だった山中  
のトンネルは貫通し来春に暫  
定的に供用が始まるが、全体  
の3分の2は未整備となつて

いる。

河瀬市長は、トンネル開通  
で住民の利便性は向上すると  
し「(他の部分は)緊急性は  
なく市費で整備することはな  
い」とした。また敦賀3、4  
号については「エネルギーミ  
ックスで、例えば原発の比率  
が20%となれば、おのずと3、  
4号を増設しないとまかなえ  
ない」と必要性を話した。

(柴田裕介)